

社会科シラバス 中学歴史

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間 × 2 年 ※3 年次は週 3 時間	第 1・2 学年 第 3 学年 1 学期	中学社会歴史的分野(日本文教出版)
学習の到達目標	(1) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた歴史的知識・読解力など情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。 (Science) (2) 異なる文化や価値観に対する理解と日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、それらを尊重しながら、日本に生活の基盤を置く者としての考えや価値観を世界に発信できる力を養い、現在世界で起きているさまざまな問題を解決するために多種多様な人びとと協調できる人間になる。(Global) (3) 歴史の学習活動を通じて、相手の立場に立って考える姿勢を磨くとともに、人文科学・社会科学の基礎的な知識を結びつけ、論理的に活用する能力を獲得し、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。 (Liberal Arts)		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの	100%
B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	80%
C : 「努力を要する」状況と判断されるもの	60%
D : 未提出, 未実施	0%

中学2年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 月	第4編 近世の日本と世界		
	第三部 産業の発達と元禄文化 1 産業の発達と都市 2 江戸時代前期の文化と学問 第四部 幕府政治の改革と農村の変化 1 幕府政治の改革 2 農村の変化と民衆の動き 3 江戸時代後期の学問と文化	○諸産業の発達とともに交通網が整備され、都市としての形態が整っていったことを理解する。 ○元禄文化や学問の特色を理解するとともに、それらが発展した背景について、社会状況と関連づけながら理解する。 ○江戸幕府における政治改革の内容とともに、改革を行った背景と改革の影響を整理して理解する。 ○商品作物の栽培の広がりや、貨幣経済の浸透による社会変化を理解する。 ○百姓一揆や打ちこわしが増加した背景について、農村の変化や当時の社会状況を関連づけて理解する。 ○化政文化や新しい学問の特色を理解するとともに、それらが発達した背景について、社会状況と関連づけながら理解する。	・江戸時代の日本地域について、都市機能に着目しながら、社会状況を理解している。 ・元禄文化や学問の特色を理解している。 ・江戸時代の諸改革について、その背景、内容、影響を理解している。 ・江戸時代中期以降の社会変化や、それが民衆の生活や社会思想、政治にもたらした影響を理解している。
	第5編		
	第一章 日本の近代化 第一部 欧米の発展とアジアの植民地化 1 産業革命 2 王政から議会制へ 3 アメリカの独立とフランス革命 4 新興勢力の台頭 5 ヨーロッパのアジア侵略 第二部 近世から近代へ 1 ゆらぐ幕府の支配 2 開国 3 江戸幕府の滅亡	○イギリスで産業革命が起きた背景や経緯について理解するとともに、それによって起こった資本主義社会の成立や、社会問題の発生について、その影響とともに理解する。 ○ヨーロッパにおける政治体制の変化について、議会制の確立や啓蒙思想の発展の影響を含めて理解する。 ○アメリカの独立やフランス革命が、どんな社会的変革とつながっているのかを理解する。 ○アメリカ・ロシア・ドイツが領土拡大を目指すまでの経緯を理解する。 ○国内外の変化とそれに対する幕府の対応、その結果と影響を理解する。 ○不平等条約が日本の社会や経済にもたらした影響を理解する。 ○倒幕に至るまでの経緯を理解する。	・産業革命の背景・内容・影響を理解する。 ・議会制とはなにか理解している。 ・啓蒙思想の内容や代表者を理解している。 ・アメリカ独立革命とフランス革命の理念を、「独立宣言」や「人権宣言」の内容を活用して説明できる。 ・南北戦争の背景と結果を説明できる。 ・ロシアの南下政策とはどのような政策か、説明できる。 ・ドイツがどのように国内政治を整えたのか説明できる。 ・天保の改革の失敗が幕府に対する人々の考えをどう変えたのか説明できる。 ・「日米修好通商条約」を説明できる。 ・幕府批判勢力の動きを説明できる。
5 月			
6 月			

9 月 10 月 11 月	第5編 第一章 日本の近代化 第三部 近代国家へのあゆみ 1 明治維新 2 殖産興業と富国強兵 3 文明開化の展開 4 近代的な国際関係の形成 5 領土の確定と隣接地域	○明治維新で、日本の政治・人々の生活・社会・経済・文化などがどのように変わったのか、江戸時代の社会と比較して理解する。 ○明治新政府が明治維新で目指したものはなんだったのか、理解する。 ○日本地図を見ながら、当時の国境の変化を理解する。	・「版籍奉還」と「廃藩置県」の違いを説明できる。 ・「地租改正」に対する民衆の反応を説明できる。 ・当時の日本の国境線を地図に引くことができる。
	第四部 立憲制国家の成立 1 士族の反乱と自由民権運動 2 憲法をめぐる対立 3 大日本帝国憲法の制定 4 藩閥政府と民党	○なぜ自由民権運動が起こるにいたったのか、理解する。 ○憲法の制定と国会の開設を巡る諸勢力の考えを理解する。	・戊辰戦争の影響を説明する。 ・「明治14年の政変」や「秩父事件」がもたらした影響を整理する。
	第五部 日清・日露の戦争と東アジアの動き 1 列強の動向とアジア 2 朝鮮をめぐる対立 3 朝鮮・満州を巡る日本とロシアの対立 4 日本の朝鮮支配	○アジアを巡る帝国主義国家、日本と清の動きを理解する。 ○日清戦争の影響と、アジアを巡る日本とロシアの動きを理解する。 ○日本による朝鮮支配の過程と中国の近代化の結果を理解する。	・帝国主義国家の考えを、これまでの勉強から整理する。 ・下関条約の内容を説明できる。 ・ポーツマス条約の内容を説明できる。 ・朝鮮併合までの経緯と両国の関係を説明できる。
	第六部 近代の日本の社会と文化 1 日本の産業革命 2 社会運動の発展と近代文化の形成	○日本の産業革命の進展とこの時期の国民生活の変化を結びつけて考察する。 ○資本主義の発展は様々な影響をあたえ、労働運動や貧困と抑圧から解放を求める思想が登場したことを考え、表現する。	・国家の支援を受けて、日本国内で軽工業、重工業が発展していく様子を表現できる。 ・産業革命の結果として、労働運動や社会運動が発展していったことを説明できる。
	第5編 第二章 二度の世界大戦と日本 第一部 第一次世界大戦と戦後の世界 1 第1次世界大戦 2 日本の参戦と大戦景気 3 大戦後の世界とアジアの民族運動	○第一次世界大戦が起きた背景や原因、ロシア革命の動き、ヨーロッパに与えた影響を理解する。 ○第一次世界大戦に参戦した日本で経済が好景気をむかえたり、米騒動が起こったりしたことを理解する。 ○二十一か条の要求やシベリア出兵の意図をとらえて、第一次世界大戦が日本に与えた影響を考える。	・第1次世界大戦のきっかけとなるバルカン半島情勢やヨーロッパの勢力について説明できる。 ・第1次世界大戦とロシア革命の特徴を説明できる。 ・東アジア、特に日本における第1次世界大戦の影響を説明できる。 ・戦後の国際体制とアジアの民族独立運動の関連性を説明できる。 ・

		○第一次世界大戦後に、国際平和や軍縮のための努力がなされたことを理解する。 ○アジアの民族運動や独立運動の流れを、第一次世界大戦と関連づけて考察する。	
1月 2月	第5編 第二章 二度の世界大戦と日本 第二部 大正デモクラシーの時代 1 大正デモクラシー 2 社会運動の広がり 3 都市化の進展と大衆文化 第三部 世界恐慌と日本 1 世界恐慌と各国の対応 2 日本の恐慌と東アジア情勢 3 日本の進路を変えた満州事変 4 日中全面戦争と戦時体制	○世界のどのような流れを受けて国内でデモクラシーの風潮がでてきたのかをつかむ。同時にそれに対して政府がどう対処し、社会がどう変化していったかを理解する。 ○恐慌を起点になぜ日本は満州事変から戦争への道を突き進んでいったのかを考える。 ○戦争への道を進むに当たってどうして止められなかったのかを知り、戦時体制の構築の過程を理解する。	・大正デモクラシーとその社会的、政治的影響を確認する。 ・満州事変の流れとそこからの日中戦争から太平洋戦争までの流れを整理する。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞			ノート提出・課題への取り組み(30%)
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞			定期試験(35%)
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞			定期試験(35%)

【観点別評価】

1, ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。

B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。

C：補充できていない空欄が存在する。

D：未提出

2, ワーク課題

課題内容	評価指標
明治の偉人履歴書ワーク (明治維新前後に日本の近代化に貢献した偉人について調べ学習を行い、履歴書を作成する)	①履歴書プリント A：指定した条件に合致する書き込みをしており、絵図やレイアウトに創意工夫がみられる。 B：指定した条件に合致する書き込みをしているが、端的で不十分な内容である C：未提出、あるいは指定した条件を無視している。 ②発表メモ A：他者の発表をよく聞き、メモを取れている。 B：空欄の部分がある。 C：未提出 ③振り返り「明治日本の近代化に最も貢献したのは誰か、自分の考えを述べなさい」 A：発表内容を踏まえて振り返りに取り組み、説得力ある根拠を述べつつ、明治維新についての学びを振り返っている。 B：発表内容を無視して自分の考えを述べている C：未提出、あるいは人名のみ

社会科シラバス 中学地理

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 地理	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間 × 2 年	第 1・第 2 学年	社会科 中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図(帝国書院)
学習の到達目標	(1) 自立して学習に向かう探究心を持ち、積み重ねてきた知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者に伝え、より良い人間関係を築くことの出来る表現力を身につける。(自立 自存・寛容と共生) (2) 人間を取り巻く環境や、身のまわりでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた地理的知識・情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。(Science) (3) 現代社会において大きな課題となっている環境問題や災害に対し、自然科学と社会科学の両面から幅広い視野を持って問題意識を深め、問題解決のために行動を起こせる力を養う。(Science) (4) 私たちとは異なる価値観に対する理解を深め、それらを尊重しながら、現在世界で起きている様々な問題を解決するために多種多様な人々と協調できる人間になる。(Global) (5) SDGs の「誰ひとり残さない」という精神を念頭に、世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養う。(Global) (6) 様々な学習活動を通じて得られた社会科学と自然科学の基礎的な知識を有機的に結びつけ、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。(Liberal Arts) (7) 様々な民族や宗教・文化を背景に持つ相手の立場に立って考える姿勢を大切にしてモラルを理解し、よりよい人間関係を築くための土台を身につける。(Liberal Arts)		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

中学2年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月 5月 6月	第2部 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 1 アジア州の自然環境 2 アジア州の農業・文化と経済発展 3 経済成長を急速に遂げた中国 4 最も近い隣国、韓国 5 経済発展を目指す東南アジア 6 産業発展と人口増加が急速に進む南アジア 7 資源が豊富な中央アジア・西アジア 第6節 オセアニア州 1 オセアニア州の自然環境 2 移民の歴史と多文化社会への歩み 3 他地域と結び付いて発展する産業	<第1節> アジア州の自然環境を白地図プリントの作業を通じて理解させ、続いてアジア州の各地域について経済格差をテーマに理解させる。 発展途上国がモノカルチャーから脱却するためにどのような道を進むのがよいかを考えさせる。 <第6節> グローバルキャリアフィールドワークを実施するオーストラリアと周辺の地域を事前に学び、異文化理解の成果に繋げる。	<第1節> アジア州では季節風の影響を強く受けることで稲作が発達してきたことを理解する。 人口の多い中国・インドが米・小麦において世界で生産上位であることを理解する。 東南アジア、中国、インドの工業化と国の経済成長を考察する。 農作物や資源の輸出に依存している国が直面している課題を理解する。 <第6節> 南半球に位置するオーストラリアを中心とした国々の自然環境を理解する。 文化の面から移民の国の概念を理解する。
9月 10月 11月	第3節 アフリカ州 1 アフリカ州の自然環境 2 アフリカの歴史と文化 3 特定の輸出品に頼るアフリカの経済 4 アフリカが抱える課題とその取り組み 第2節 ヨーロッパ州 1 ヨーロッパの自然環境 2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性 3 EUの成り立ちとその影響 4 ヨーロッパの農業とEUの影響 5 ヨーロッパの工業とEUの影響 6 EUが抱える課題	<第3節> アフリカ州の自然環境を白地図プリントの作業を通じて理解させ、続いて経済の実態や今後の課題や取り組みを歴史を通して理解させる。 <第2節> ヨーロッパの国々の魅力を調べていくことで、各々の個性を知る。 世界情勢が複雑化する中で、EUが今後向かう姿を予想してみる。	<第3節> なぜ貧困にあえぐ国々が多いのかをテーマに歴史や現状に目を向けさせ理解する。 紛争地域はモノカルチャー経済からの脱却がさらに困難な状況を理解する。 <第2節> ヨーロッパの宗教・言語・環境から多様性の視点をもつことができる。 EUが結成された過程を説明できる。 EUとしての農業・工業への取り組みを理解する。 国調べを行いプレゼンテーションを行う。

1 月	第4節 北アメリカ州 1 北アメリカ州の自然環境 2 移民の歴史と多様な民族構成 3 大規模な農業と多様な農産物 4 世界をリードする工業 5 アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題	〈第4・5節〉 世界で存在感のある南北アメリカとヨーロッパの関係を捉える。 移民の歴史、農業については、北アメリカ州の中で南アメリカ州のそれぞれについて見ていく。 熱帯雨林伐採に関する環境問題に取り組む。	〈第4・5節〉 移民の歴史と民族の分布を理解する。 大規模な農業経営が行われている理由を説明できる。 資源を生かした工業化および工業地域の変容を理解する。 開発により環境保全をめぐる問題と直面していることを資料をもとに考察する。
2 月	第5節 南アメリカ州 1 南アメリカ州の自然環境 4 ブラジルにみる開発と環境保全		
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。〈主体性・多様性・協働性〉			①授業ノート提出・ 発表課題提出・授業出席点 (30%)
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。〈思考力・判断力・表現力〉			②定期試験 (35%)
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。〈知識・技能〉			③定期試験 (35%)

【観点別評価】

1. ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。

B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。

C：補充できていない空欄が存在する。

D：未提出

2, 発表課題

課題内容	評価指標
アジア・オセアニア地域の課題について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。 C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。
海外地域に関連する新聞記事ワーク	A：探究的な内容の新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明を表現したり、今後の学習を見据えた発展的な意見を述べている。 B：現代の諸課題に関連した新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明をしようとする姿勢が読み取ることができ、指示した課題に取り組んでいる。 C：他者にはわかりにくい説明であったり、指示した課題に取り組めていないなどといった、主体性を感じられない内容である。 D：未提出
ヨーロッパ地域の課題について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。 C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。